

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人 食糧学院
東京栄養食糧専門学校

学校法人食糧学院 東京栄養食糧専門学校
学校関係者評価報告書

自己点検・自己評価実施委員会が作成した「令和4年度自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価」を行いました。その結果を以下の通り報告いたします。

- 1.開催日時 令和5年3月10日(金) 17:00~19:00
- 2.開催場所 東京栄養食糧専門学校 本館二階 会議室
- 3.委員 (1) 学校関係者評価委員
- | | |
|--------|-------------------------------|
| 寺嶋 利行 | 一般社団法人 F L A ネットワーク協会 事務局長 |
| 粕谷 正幸 | 株式会社ケアサービスひかり 代表取締役社長 |
| 大木 いづみ | 慶応義塾大学病院 食養管理課 課長 |
| 青地 克頼 | 聖徳大学人間栄養学部 教授
日本健康運動指導士会会長 |
| 渡邊 智子 | 東京栄養食糧専門学校 校長 |
| 金澤 敏文 | 東京栄養食糧専門学校 教務部 部長 |
| 船木 潤 | 食糧学院 学院本部 総務統括部 部長 |
| 鈴木 健一 | 東京栄養食糧専門学校 教務部 就職進路支援課 課長 |
- (2) 事務局
- | | |
|-------|-----------------------------|
| 國井 規代 | 東京栄養食糧専門学校 教務部 教務学生課 主事 |
| 志村 亜衣 | 東京栄養食糧専門学校 教務部 実験・実習グループ 主任 |
| 和田 佳苗 | 東京栄養食糧専門学校 教務部 講師 |

会議の概要

- (1) 委員長選出
- (2) 令和4年度 第1回学校関係者評価委員会議事録確認
- (3) 令和4年度 第1回学校関係者評価結果の現状について
- (4) 令和4年度 職業実践教育推進活動状況について
- (5) 令和4年度および次年度に向けて、より実践的な職業教育を行うにあたっての提案事項
- (6) その他

令和4年度 自己点検・自己評価報告書 令和5年1月31日現在

令和4年度 学校関係者評価結果

(学校関係者評価委員会実施日：令和5年3月10日)

学校法人 食糧学院 東京栄養食糧専門学校

大項目	学校関係者評価
<p>基準1 教育理念 目的・育成人材像</p>	<p>本校は「専門教育に誇りを持ち、社会から信頼される教育機関を目指すと共に社会から高い評価を得られる学術・技能に優れた人材の育成に努める」ことを教育の理念・目標に掲げ、社会に貢献できる栄養士・管理栄養士の育成に努めている。具体的には「栄養士・管理栄養士が持つべき基本的スキルである調理技術や身体状況に見合う献立作成技術の習得、更には栄養指導、栄養教育に不可欠な他人を思いやる豊かな人間性の涵養」を周知しているところである。</p> <p>栄養士科は5コース（健康増進栄養系、医療・福祉系、こども・食育系、健康・美容系、食品開発系）管理栄養士科は2コース（医療・福祉栄養系、健康・食育栄養系）のコース制を導入し、将来を見据えた専門性を磨くことができる。また、実学教育を実施すべく、カリキュラムに実習・実験・演習を多く取り入れ、アクティブラーニングを推進している。中長期的構想の中で、栄養士科、管理栄養士科の卒業生が学んでも遜色のない学科「健康スイーツ研究科」の設立をした。</p> <p>・専門教育の良さを生かしてアクティブラーニングを推奨している。また、既卒・社会人から来た方のリスキリング教育と学力が足りていない学生に対するリメディアル教育を進めていく。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>① 今後の課題安定的な入学生確保のための方策について、新しい方策は考えているか、またHPの社会人向けの改定はされているか。</p> <p>【回答】</p> <p>① OCの講座担当者を固定化、人気のある講座の回数を増やす。開催時期と回数を検討し、昨年は32回前後から今年は27回へ減らした。フルタイム参加ではなく、ショートバージョンを作った。通常10～14時だが、10～11、11～12時など1時間くらいが社会人には好評な様子だった。さらに、イベント型で校舎を自由に歩き体験ができる内容を考えている。広報との連携、高校の情報や情報共有し面談の際に生かすように努める。</p>
<p>基準2 学校運営</p>	<p>年度当初に策定した事業計画・予算案に基づき、理事会や定例会議（学院センター管理職会議、本校運営会議・教職員会議等）において学校運営の進捗状況、課題（問題点）等を提起、或いは報告し、教職員全体が把握できるようにしている。教職員間のコミュニケーション手段の一助としてインフラの整備が進み、学校運営に対する情報の共有化が容易となる中、学院本部や広報室、キャリア支援室との連携をより密にして、更なる情報の共有化・事務処理の効率化を図っている。</p> <p>・東京調理製菓専門学校との連携、本校からの転学者（年に1～2名）をうまく導けるようにしたい。</p> <p>・学院広報との連携、本校内にも広報担当を設定し連携に努めている。</p> <p>・ICT関連の内規、学生メディアポリシーの提示を実施した。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>① 今までに調理との連携は行われないのか。</p> <p>【回答】</p> <p>① 調理校への転学も進路選択肢のひとつとして当たり前との印象付けをすることも大事。お互いの企業説明会に行く学生もいる。（調理・外食産業等を希望する学生）</p> <p>① 教員を派遣しあっている。栄養校の教員がアレルギーや栄養学の分野を調理校へ教えに行ったり、調理校からは調理技術を教えに来ている。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>専門実践専門課程に相応しいカリキュラムを作成するため、これからの高齢化社会における栄養士・管理栄養士のあるべき姿のイメージ像を描き、将来の「就職」も視野に企業・業界団体との連携を図り、企業等が求める人材ニーズを反映させたものとするを心掛けている。</p> <p>また社会人となったときに、コミュニケーション能力を活かせるよう、授業での少人数制グループワークで「全員参加型の教育」を実施、より具体的な栄養士・管理栄養士像が思い描けるよう、実社会での企業研修である校外実習・臨地実習に重点を置いている。</p> <p>・本校の特徴である選択コースは人数の偏りはあるものの、全コースが授業を実施している。</p> <p>現役の栄養士として働いている先生等、外部講師27名（令和4年度）が授業担当として協力していただいている。</p> <p>【質問・提案】</p> <p>① 学生の学力低下が顕著にみられ、初任者研修の学生も読み書き、誤字脱字が多い。具体的などのような対応を行っているのか。</p> <p>【回答】</p> <p>① 今年度から基礎支援教育担当を作り、既卒や新卒の学力差、サポート校出身や高卒認定、精神的な問題もある状態での入学など多様な学生の中から支援の必要な学生のスクリーニングを行うべく新入生を対象に入学時に算数、国語の学力考査（試験）を行った。栄養士科で</p>

	<p>は試験的に学力考査の結果から、支援が必要な学生を毎週決まった曜日・時間集め、講座を実施した。具体的には算数、国語、文章の読み書きの指導を行った。例年、学校の授業についていけないため退学をする学生が多いが、今年は少なく、学力が上がったかは明確ではないが、学生にとって教員がこのように見てくれるという意識づけができたことは良く、今後も続けていこうと思う。また、入学前教育としてドリルのような課題を提示し、基礎学力の向上をはかれないか検討している。</p>
<p>基準4 教育成果</p>	<p>全ての学生が高い満足度、充実した学校生活を感じて卒業すると共に、卒業生が社会で活躍し貢献することを期待している。授業評価（学生満足度）アンケートを実施し、その結果を教職員にフィードバックしている。管理栄養士の国家試験対策の充実は、高い合格率に表れている。就職に関しては、担任、就職進路課および全教職員が一体となり、学生の夢を叶えるべく、支援体制を強化している。学生のニーズに合った就職先の開拓や、学生個人の適正を把握し、その適正に沿った就職先の斡旋により、多くの学生がその希望により栄養士・管理栄養士の資格を活かせる職域での就職を実現している。キャリアデザインの一環として、就職活動の流れや将来像、履歴書の作成、セルフプロモーション、面接指導や就職活動のマナーなどの指導している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率：令和3年度 栄養：98.0% 管理：94.8%（専門分野 栄養97%、管理94.5%）と高い水準を保っている。各種検定の増設：秘書検定（19名中4名合格）、公務員10名、ビジネスマナー検定0名。学習の成果：栄養士科実力認定試験Aランク増加、Cランク減少であったが、全国的には低い。今後も力を入れて指導していきたい。 ・退学率が3%台、入学前より精神的なものを抱えている人がいると話題もあったが、具体的な理由を深く追っていく必要があると考える。
<p>基準5 学生支援</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲を喚起し、安心・安全を勉学に励むことが出来るよう支援体制ならびに施設環境を整えている。志半ばでの進路変更や経済的な理由で中途退学する学生がいるため、経済的支援としては、各種奨学金制度をはじめ本校独自の制度として「特待生制度」「教育後援会奨学金制度」「留学生校納金減免制度」を設けている。</p> <p>学生相談については、カウンセラー室を設けており、専任カウンセラーによるカウンセリングを必要とする学生への相談対応を行うなどきめ細やかな学生対応を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Teams の利用：学生や教員との連絡ツール、授業の配信、非常勤講師との連絡等に活用している。今後も環境整備を整えながら継続していく。 <p>卒業生の追跡：連絡ツールの検討、同窓会など強化していきたい。</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>常に充実した施設設備・環境のもと、最高水準の職業実践教育を受け学生の想い・夢・希望を叶えていきたい。校舎の老朽化は否めないが、各校舎の耐震化施工は全て実施済みであり、耐震工事に併せた外観リニューアル、80周年記念事業としての各校舎内装等のリニューアルにより、明るいキャンパスを実現している。防災（地震と火災）訓練を年2回実施し、防災に対する心構えや体制の整備を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎の老朽化が進行している。特に水回りの修繕箇所が増えている。 ・第3校舎を誰でもトイレに修繕、各種教室へプロジェクター・マイクを設置。 ・無料の充電器を設置（20名前後が使用している） ・実習室・実験室の日頃のメンテナンスを進めていきたい。
<p>基準7 学生の募集と受入</p>	<p>栄養士・管理栄養士を目指す意欲ある学生は、是非伝統と歴史と実績のある本校で学んで頂きたい。そのためには、本校のアドミッションポリシーを理解し、真摯な態度で勉学に励むことを望むものである。一人でも多くのオープンキャンパス来校者に出願して頂けるよう、全教職員が魅力ある学校の情報発信に努め、自覚と責任をもって学生募集活動を行う必要がある。</p> <p>本校では入学希望者に学校を知ってもらうために、オープンキャンパスを実施、①学校紹介、②ミニ授業体験、③施設見学、④個別相談等を行っている。参加者のリピート率も高くそれが出願に繋がっている。その他にも学校見学、授業見学等の随時実施している。また入試の形態も多様化している。学院センター広報企画室が関東一円をはじめ甲信越や東北地方での高校訪問や会場ガイダンスなどの広報活動を展開している。高校生から社会人までの様々な入学希望者に対し全教職員が“おもてなし”の気持ちをもって対応できる体制を整えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学院の重点施策にも挙げている。昨年度実績：栄養士科124名/200名定員（62%）、管理栄養士科62名/80名定員（77.5%）、健康スイーツ研究科0名/40名定員、在校生全体として充足率70%である。 ・オープンキャンパスの歩留まりをよくするための対策としてオープンキャンパスの勉強会、教職員のスキルアップ、Teamsを通して心理学を取り入れたミラーリング、反省事項の共有を行っている。 ・現在、オープンキャンパスの歩留まりは40%弱、昨年に比べ高校2年生の参加者が増えている。来校者の動向については、一昨年は大学入試方法の転換期で高校側も戸惑いが見られ大学と専門に分かれてきたが、昨年は大学の入試方法への対策も落ち着き、本校への入学も減少したと考えられる。今年の予測は、昨年並みまたはそれより少ない。高校生、来校者を増やすには大学にない魅力のアピール、高校や短大（外部編入生）との連携が必要である。

	<p>【質問・提案】</p> <p>① オープンキャンパスの告知はどのくらいの頻度で行っているか。</p> <p>② 自身の大学では、HP の更新のブログは学科で更新する。2 週間前にはテーマやマップをあらかじめリアルタイムに上げる、前見た時と違う情報を更新している。終了後の写真などは効果なかった。在校生との関わりはどうか。</p> <p>③ オープンキャンパスの反省会などの取り組みは今までやっていないのか。</p> <p>【回答】</p> <p>① パンフレットに年間の日程のみ記載、3 か月ごとに日程を開示、2 か月前くらいにHP で具体的な内容を出す。内容は担当の委員会で決め、実習などが多い。HP は、広報が扱っているので、大枠は業者に委託している。</p> <p>② 学生は繁忙期には8 人前後。通常3~4 人、誘導、校内見学等を行っている。</p> <p>③ その部署のリーダーで反省会を行い、その日に反省を Teams にあげて共有する。共通認識をもって取り組めるように努めている。スピード感をもって次のオープンキャンパスに反映されている。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>無借金経営であり中期的な財務基盤は安定しているが、校舎等の老朽化により近い将来の立て直しの検討も必要となる。充実した教育目標に即した経営基盤の強化を達成するために、①定員の確保②退学率の低下に努めている。令和3年度の財務情報は、現在HP で公表中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎が50年経つので、修繕しつつ、無駄な部分をなくしていくよう努めている。 ・年々学生が減る中で、各々が危機感を持つ必要がある。
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>関係法規を基本とし、法令・設置基準等を遵守している。またISO14001に基づき環境保護等に配慮した教育を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISOの取り組みを行っているが、PDCAの中でもA(検証)を苦手としているので、そこに力を入れていきたい。法律的な縛りは更新されていくため、外部の力も借りて新しいものを取り入れる必要がある。
<p>基準10 社会貢献</p>	<p>教職員は、本校の教育資源を社会貢献や地域貢献に活用できるよう自覚を持って行動している。本校は池尻町内会に所属しており、近隣住民を対象とした「食糧祭」を毎年開催している。売上金の一部は世田谷区福祉協議会に寄付し、子ども食堂の運営の一助としている。さらに手作りの菓子やパンなどを作り、定期的(1回/週)に販売する「池尻マルシェ」も好評である。高齢化する地元住民にとって、学校や学生との交流は非常に感謝されている。公開講座としてスキルアップアカデミー講座、長寿健康ベターエイジング研究所主催の各種セミナー、講演会等を定期的実施している。引き続き「食と健康」の情報発信源として社会から高い評価が得られるよう、より一層の努力を継続していきたい。社会貢献活動を通じて地域の皆様の健康増進と健康寿命延伸の一翼を担っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携、産学コラボ研究会、池尻マルシェ(月1回)、スキルアップアカデミー、SDGsへの取り組みとして、ゴミの分別強化、傘の貸出(忘れ物のリサイクル)の導入を行った。 ・駒沢大学陸上競技部設置寮で夕食提供のボランティアを行っている。